

平成21年10月9日  
原子力安全対策課  
( 2 1 - 4 3 )  
<11時30分記者発表>

## 原子炉廃止措置研究開発センター（ふげん）の原子炉補助建屋内にある 試験装置からのわずかな重水（トリチウムを含む）漏えいについて

このことについて、日本原子力研究開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

### 記

廃止措置準備期間中のふげんでは、原子炉補助建屋（管理区域）3階のホットカラム試験装置\*1室において、同装置内に残留する重水を抜き取るための準備作業として、10月6日から汚染拡大防止の作業（養生作業）を行っていたところ、10月8日14時43分頃に、同装置の一部である腐食電位試験槽\*2の下に置かれていた紙タオルが濡れていることを発見した。

このため試験槽周辺を点検したところ、試験槽に取り付けられている小口径の計装用配管（腐食電位測定用）ネジ部からわずかな重水の滴下が認められたので、直ちに当該ネジ部を増し締めし、漏れは停止した。

紙タオルに含まれていた重水（約70cm<sup>3</sup>）は全て回収した。重水にはトリチウム（放射性物質）が含まれており、その濃度は $4.1 \times 10^7$  Bq/cm<sup>3</sup>であり、漏えいした放射能の総量は約 $3.2 \times 10^9$  Bqと評価された。さらに、漏れた重水から室内の空气中に広がったトリチウムを除去するため、同室内の換気を非常用ガス処理系で処理するよう変更した。

なお、当時室内にいた作業員4名はただちに退出し、内部被ばく評価を行ったところ、うち1名は自主管理値（0.2mSv）を超える内部被ばく（0.21mSv）が認められたが、この値は個人の被ばく歴として記録に残すレベル（2mSv）を下回っており、健康安全上の影響はない。

なお、排気筒に設置しているトリチウムモニタには有意な変化はなく、本事象による外部への放射能の影響はない。

\*1 重水を浄化するための樹脂の性能や、重水中での金属の腐食を測定する装置

\*2 重水中での金属材料の健全性を評価するため重水中の腐食電位を測定する試験槽

（経済産業省による I N E S の暫定評価尺度）

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0—	0—

I N E S : 国際原子力事象評価尺度

問い合わせ先(担当:久保田)  
内線2352・直通0776(20)0314

# ホットカラム試験装置

